

巨人 宇宙創造の目的

「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります・・・

わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」ヨハネ 14:2,3

頓智で有名な風狂の禅僧、一休さんの歌に、「門松は冥土への一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」という警告にも似た狂歌があります。死後の世界は明らかに存在し、この世はその土台にしかすぎず、私たち人間すべてはそこで永遠に生きている、と学んだ私たちにとっても、その用意ができていている人には、めでたく感じ、用意ができていないと思っている人にとっては、めでたくない、と感じるものかもしれません。

新年を迎え、自分の永遠の住まいとすべき天界の全体を、一人の人間として見て、私たちすべてが向かうべき方向を改めて確認して、用意を確かなものとしましょう。

「神は・・・、人をご自身のかたちに創造された。」(創世記 1:27)

「みことばにある通り、天の王国は一人の人間の形で存在しており、それは、そこにあるすべてが、主お一人に、すなわち主の神的人間に相応するためです。その主への相応から、そして主の似姿と像から、天界は巨人と呼ばれます」(天界の秘義 3741)。

創世記の「ご自身の形」とは、主の神的人間の形であり、天界の形であり、最小の天界である人間の形でもあり、それは神ご自身に相応した、神の似姿・像です。

ここでいわれる、形とはそもそも何でしょうか？

「それ自身で完全な単一体が存在するためには、形なしでは不可能であり、形そのものが、その単一体を作っています・・・そして、存在するなら、それは形を持っています・・・形がないものは何も影響を与えることができず、影響を与えることができなければ、実体を持ちません・・・神的愛と知恵は実体であり形です・・・」(神の摂理 4)

形がないものは存在できません。ただし、この形は、空間にある図形、という意味ではなく、時間と空間から離れた「形」です(天界の秘義 4043)。

それはたとえば、「感謝の気持ち」を「形」にしなければ存在せず、異性や、家族への愛情も心に抱いているだけなら、独りよがりや、思い込みにしかすぎないのと同じです。気持ちやまごころがあったとしても、なんらかの形にして表さなければ、次第に薄れて消えてゆき、果ては忘却してしまいます。

天界は、なぜ人間の形なのでしょう？

自然界のすべては、主の王国を表象する劇場であり、神的なものは自然のそれぞれ個別の内にあります(天界の秘義 5116 等)が、それはなにがしか神的なものの何かが含まれているという意味にすぎません。神的秩序・天界的秩序が全体としてそのまま反映される可能性があるのは人間の形でしかありません。人間の形には、身体構成だけではなく、身ぶりや行為までが含まれます。すなわち、人間の形とは四

肢や内臓の器官や組織だけではなく、行為や振る舞いもすべてが人間の形です。残虐なことや冷酷なことをする人に向かって、「あなたはそれでも人間ですか？」と非難することがありますが、言葉遣いや考え方、そして言動すべてを含んだものが、その人間の形となります。なぜなら人間は、神の似姿と像であり、神的愛が神の似姿、そして神的知恵が神の像となり（神の愛と知恵 358）、神の愛と知恵を宿すに従って、人は神の似姿と像になってゆき、そこに神が住まわれます。

人間の形は、神的なものの究極の形です。なぜ人間の形が究極なのかについては、天界の教義はこう教えています。

「神的秩序とそこからの天界の秩序は、その最も遠い極限—その体に関すること—を超えて広がることはありません。すなわち、その身ぶり、行為、顔の表情、話し、外的な感覚、これらに伴う喜びなどです。これらの身体的なことがらは、秩序と流入が広がる最も遠い極限で、そこで終結します。」（天界の秘義 3632）

この人間の形を、人間は生まれたときから持っているのでしょうか、それとも成長して人間となるのでしょうか。人間の誕生にさかのぼって考えてみます。胎内での姿を描いた部分が著作にあります。

人間の原初の姿、天使がみせてくれた胎児の姿は、「脳のごく小さい像が、正面にかすかな顔らしいものとともに見え、その他には突起物は見えません。・・・それは完全な大きさの脳が二つの半球に分かれているように、突起した部分、脳のミニチュアが二つの丸いものに分かれています。右の丸い部分は愛の器であり、左の丸い部分は知恵の器で、両者の信じがたい複雑な結びつきは、夫婦かルームメイトのようだと、天使に教えられます」（神の愛と知恵 432）。

著作は、人は生まれながらにして、器として人の形を持っていると述べています。

現代科学は、胎児は第四週くらいに中枢神経が発達し、第六週くらいで心臓の鼓動が確認できるとしていますが、このとき天使が示したのは、霊的な実体かもしれません。

人間の形の源は、脳の部分にあり、それは神の愛と知恵を受ける器として創造されています。神とは、愛と知恵自体であり、それ以外のものではありません。その神の愛と知恵を受ける器が、人間であり、それを受ける「形」が人体となります。

しかし、脳だけの人間がないように、人には手足、内臓、皮膚、感覚器官等、他の部分が必要です。現代科学の観察では、胎児は中枢神経がはっきりした後、内臓などの器官が形成されるとされています。著作においても、「人の生命の始原的な形は脳で見られ、二次的な形は身体でみられる」（神の愛と知恵 365）とされています。

身体の中で、最も重要なものが心臓と肺です。脳が第一義的に受け、次に心臓と肺が受けます。脳は霊的なものに対応し、心臓と肺は自然的なものに対応しています。肉体の死は心停止の時だと著作にはあり、内臓移植の条件は、脳死か心停止かという問題に対して、新教会信者の多数の方は心停止でなければ殺人ではないかと疑いを抱きます。しかし、心停止が自然的肉体の死であれば、脳死は霊的なものが流入できない、霊的な死であり、さらに脳には大脳～脳幹の区別があって、この部分の生死も含めて考

えると、簡単にはわりきれない問題で、脳死での内臓移植が、おかしいとはいきません。

「巨大人の心臓は、・・・主への愛とそして隣人への愛からでき・・・巨大人の肺・・・は、主からくる仁愛と信仰からできています。・・・心臓が肺に最初に流入し、そこから体の器官と組織に流入するように、主も愛の善を通して、内的真理に流入し、これによって外的真理と善の形に流入します・・・」（天界の秘義9276）。

肺や腎臓、目・耳などのように多くの器官・臓器は、一対となって二つ存在しています。心臓も二心房二心室と明確に分かれ、左心室から出て、全身の器官に酸素と栄養を送り、右心房に二酸化炭素や老廃物を戻す「体循環の流れ」と、その血液を右心室から肺に送り、ガス交換して酸素を得て左心房に戻ってくる「肺循環の流れ」があります。

心臓は、すべての器官に酸素と栄養を届け、決して休むことのない臓器で、心臓からの血液の供給が途絶えると、他の臓器に先駆けて、数分で脳が死んでしまい、破壊された脳細胞は蘇生しないとされています。すべての臓器を生かし続けているのは、少なくとも心臓の働きであることには間違いありません。巨大人の中にあっても、主の愛を全体に伝えているのは、心臓部である天的王国、愛を第一とする天界です。主の愛を受け、それを心臓によって全体に伝える役割です。全人類への愛、人類が生まれ存続し拡大してゆく目的を失えば、遺伝的傾向によって劣化した人類の愛は、世間愛と自己への愛に突進して、互いを滅ぼしつくし、自己が他を支配するまでやむことはありません。本物の愛を伝え、すべてを生かす心臓が、身体のまさに中心となっています。

肺は外気から得る酸素と、体から集められた二酸化炭素を交換しますが、これはまるで、自分の中に賜った悪い思考や偽りと、自分の外にある新しい考え、正しい考え、そして真理を交換する働きのように見えます。胎児の時は、母親の血液から臍帯を通して受け通っていた酸素を、分娩によって、胎内から出たときに肺呼吸が始まります。

このとき、心臓の王国にいた胎児は、分娩・この世への誕生によって、肺の王国の影響のもとに移されて嬰兒となります。天的なものから、霊的なものへと移りますが、幼児～成人の間に信仰の真理を学び、愛の善に導き入れられ、心臓の王国である天的なものに戻ります（天界の秘義 4931-3 参照）。

肺循環を行っている心臓の半分は、肺と密接に結びついており、切り離せない関係となっています。

最大の臓器であり、栄養分の分解と合成、貯蔵、有害物質の解毒を行い、胆汁を生産する巨大な化学工場である肝臓。体の血糖値をコントロールするホルモンを分泌し、あらゆるものを強烈に消化する膵液を分泌する膵臓。血液を濾過して余分な水分や塩分、老廃物を排出する腎臓。血管から老廃物や余分なものを運び去り。病原菌や毒素を撃退するリンパ節。

これらの臓器は、巨大人の中では、新しい霊を、螺旋運動の中で、調和に導き、区分して排出する働きを持っています（天界の秘義 5182～等参照）。

巨大人の消化器系統、胃～腸～直腸は、正確には外部であり、巨大人自体を構成してないとされています。そこは排泄物として巨大人の外側に捨てられる地獄に隣接しています（天界の秘義 5392～参照）。巨

大人の消化器系統は、外部から入ってくる霊を拒まず受け付け、その善い部分を生かし、悪い部分を分離して排泄します。善い霊は吸収され、役立ちの場所に送り込まれます。多くのものが、巨大人を構成するようになれば、多様性が増し、巨大人はますます完全となってゆきます。

この多様性と完全性に関しては、「形に構成しているものがはっきりと異なり、それにもかかわらず結ばれていれば、より完全な統一体となります」（神の摂理 4）。

同質のものではなく、様々に異なる構成要素が集まれば、形はより完全なものとなってゆきます。最初はただ一個の細胞である受精卵も、約60兆個の細胞が増えて、様々な器官・臓器となって、一人の人を造り上げます。多様なものが集まり、秩序と調和の内に、それぞれが役立ちを果たせば、より完全なものできてゆきます。

「天界に入る者すべては巨大人の器官が構成員となります。そして天界は決して閉じることなく、数が大きくなればその働きは強くなり、力も強くなり、行為も強くなります。主の天界は果てしなく、あらゆる概念を超えていて、この地球の住人は比較すればごくわずかで、池と大洋を比べたくらいのものにしかすぎません。」（天界の秘義 3631）

役立ちこそが、この多様性を結びつける鍵となります。

機能・働きが形を作ります。「役立ちは、身体の有機的な形以前に存在し、役立ちが形を産み出し適合させます。その逆はありません。しかし、形が産み出され、器官が適合すると、役立ちはそこから始まり、あたかも形あるいは役立ちが役立ちに先んじているようにみえます。」（天界の秘義 4223）

「というのは、主は天界のすべてであられ、主にある個々の天使のそれぞれは、そこで特定の領域と機能を割り当てられているからです」（天界の秘義 3637）

流入と相応に関する限り、動物と人間は同じようなものです。すなわち霊界からの流入と、自然界からの流れで、動物も人も、ともに生まれ、生命を与えられています。しかしその流入と流れの実際の働きは動物の魂がとる形と、従って動物の体がとる形に従って変化します。・・・人間の魂はより高いレベルにあり、より完全な状態にあり、上方に目を向けること、天界と主を見上げることができます。従って主はご自身を彼らに結びつけ、永遠の生命を与えることが可能となります。しかし動物は下を見ること、すなわち地上のことがらを見て、これらだけに自らを結びつけてしまいます。これが身体と共に滅びてしまう理由です。・・・人は霊的そして天的目的を視野に置き、見て、認め、心を傾けることができます。このように人は、天界にあり天界を構成する、目的そして目標の神的スフィアに住まうことができますが、獣は地上にある目的と目標のスフィアにしか住まうことができません。目的とは愛にほかなりません。なぜなら人は愛する目的を視野に置くからです（天界の秘義 3646）。

私たちの生の目的は、巨大人の一部となることだと言い換えても変わりません。人間創造の目的は、人間から天界を造り上げることであるからです。そして地上にあっても、天界、神の似姿・像である巨大人と相応することができます。

地上のこと、自分の欲から目を離し、天界にいて私たちを招いておられる本物・唯一の巨大人である主を見上げ、その目的を知ります。

悪い考えや、恨み、憤り、自分だけが・・・という偽りの思いを、巨大人の肺が息をするように、体中から集めて吐き出し続け、逆に正しい考えや、信仰のみを吸い込み、心臓から送り出し、体に万遍なく送って、善い行動として実現します。心臓は柔らかく、穏やかに、優しい天界の愛の鼓動を打つよういつも心がけます。これをコントロールするのが脳の部分です。まず大脳でコントロールして、それが小脳へ向かって、悪を厭い、善を行う行動パターンを第二の習慣として自分のものにします。

新しい習慣である自分の住まい・状態をあえて拒まないなら、「父の家」にある「たくさんの住まい」に、「あなたがたを・・迎え、・・・わたしのいる所に、あなたがたをもいる」(ヨハネ 14:3)ことができます。アーメン。

創世記

1:26 そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。

1:27 神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

ヨハネ 14:1

あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

14:7 あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」

天界の秘義9276 [6] 部分

・・・巨大人の心臓、すなわち、天界と教会の心臓は、主への愛と隣人への愛によって治められている者たちによって成り立っており、個々人を捨象すれば、主への愛とそして隣人への愛からできています。しかし巨大人の肺あるいは天界と教会にいる者は、主からきて、そして信仰からくる隣人への仁愛にいる者から成り立ち、個々人を捨象すれば、主からくる仁愛と信仰からできています。しかし、巨大人の残りの器官と組織は、善の外的形と外的真理、そして個々人を捨象すれば、善の外的形と外的真理によってできていて、それによって内的真理と善の形がもたらされます。心臓が肺に最初に流入し、そこから体の器官と組織に流入するように、主も愛の善を通して、内的真理に流入し、これによって外的真理と善の形に流入します。・・・